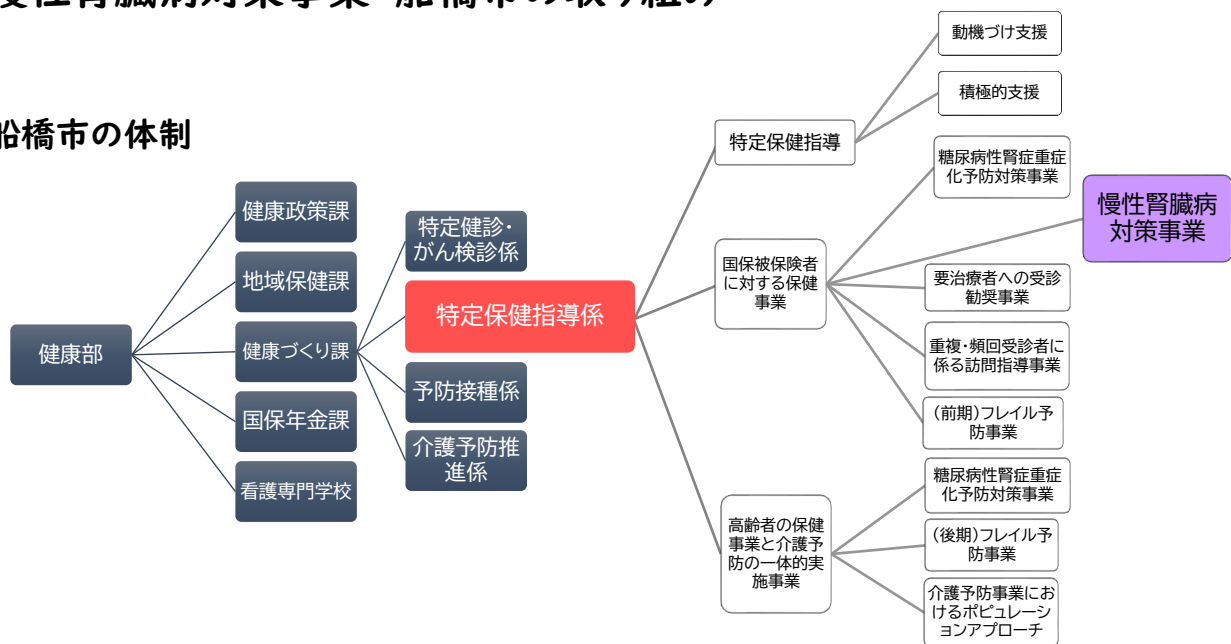


慢性腎臓病対策事業 船橋市の取り組み

船橋市の体制



慢性腎臓病対策事業を船橋市で開始した背景

※下記の分析は平成 25 年度当時のデータ

- ・平成 25 年度より特定健康診査の検査項目に血清クレアチニンが追加され、eGFR の算出が可能となった。
- ・船橋市国保加入者の医療費分析で慢性腎不全は総額上位の位置づけ。他の総額上位の疾病と比較すると件数は少ないが 1 件あたりの医療費が高額。
- ・船橋市国保加入者の新規人工透析導入者数が年々増加。
- ・船橋市国保加入者の新規人工透析導入者の原疾患の約半数が糖尿病関連となった。

→ 生活習慣改善、糖尿病や慢性腎臓病対策を行い新規人工透析導入者数の減少を目指す

平成 25 年度から市独自で慢性腎臓病対策事業を開始

対象者

健診の結果から抽出 ①②は 40～65 歳 ③④⑤は 70～74 歳

- ① eGFR45 未満
- ② eGFR45 以上かつ尿蛋白（2+）以上
- ③ eGFR40 未満
- ④ eGFR40 以上 60 未満かつ尿蛋白（2+）以上
- ⑤ eGFR40 以上 45 未満かつ尿蛋白（+）以下または eGFR60 以上かつ尿蛋白（2+）以上

※令和 2 年度より70歳代へ対象を拡大

令和 3 年度から千葉県の基準も追加し現行の対象者基準となった

支援内容

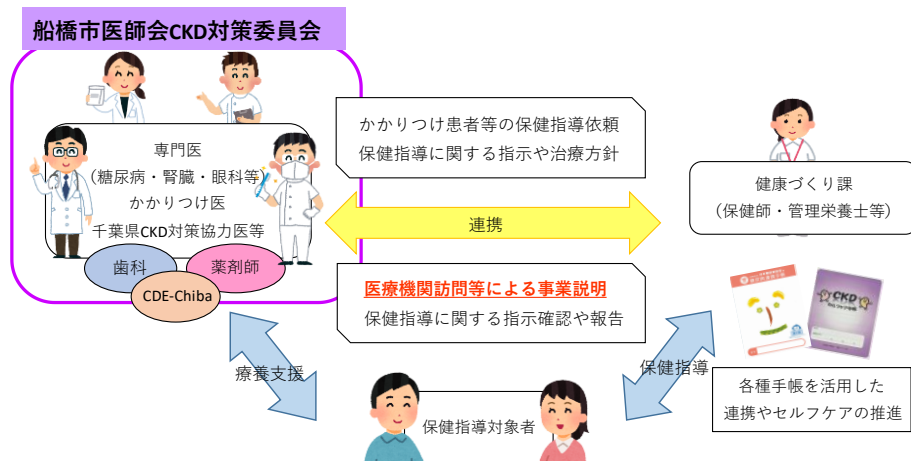
保健師、管理栄養士が電話や面接、訪問等にて初回把握。3～4 か月後、継続支援を行う。

（対象者⑤は郵送による受診勧奨）

船橋市医師会 CKD 対策委員会との連携

平成 28 年 3 月 CKD 対策委員会発足 ～ 市内全域で統一した CKD 対策のシステム作り

- CKD に関する知識の普及啓発
- CKD の早期発見、早期治療介入
- かかりつけ医主体の CKD 対策の構築、かかりつけ医と腎専門医の診療連携体制の強化
(相談連携システムの構築と活用)



CKD 対策委員会 会議の構成員

船橋市医師会、船橋歯科医師会、船橋薬剤師会、船橋市栄養士会、協会けんぽ、腎臓内科看護師
船橋市地域保健課、船橋市健康づくり課

課題と対策

1) CKD の理解、普及啓発の推進

- ・CKD 対策委員会で CKD 対策を検討 (CKD に関する研修会等を企画、運営等)
- ・CKD 相談連携システムの見直しと再構築
- ・CKD シールの活用
- ・地域保健、職域保健との連携

2) 健康づくり課と医療機関の連携

- ・CKD 対策委員会との連携
- ・かかりつけ医との連携 ～ 指導内容の指示や助言⇔指導内容の報告
- ・顔の見える関係づくりのための医療機関訪問 (令和 6 年度から再開)
- ・CKD セルフケア手帳の活用

3) わかりやすく、行動変容を促す保健指導の実施

- ・支援方法や支援がより必要な人への介入と優先順位の検討
- ・わかりやすく、目を引く CKD 資材の作成と利用
- ・指導者側の研鑽とスキルアップ